

19. 管内N肥育センターの経営改善に向けたウルソ投与試験

豊肥振興局生産流通部、農林水産研究指導センター畜産研究部¹⁾

○好田真由美、塩崎洋一¹⁾

1. 背景及び目的

肉用牛肥育の経営改善にあたっては、経済性を考えると売上げ(枝肉重量×単価)の改善を、枝肉重量に着目して行うのが基本である。そうした中、当センターでは、平成20年9月からとよのくにエクセレント体系に取り組みはじめ、採食量が増加するとともに枝肉重量も向上している最中にある。

一方で、中には肥育期間中に喰い止まりを起こす個体があり、要因の一つとして肝機能の低下があると言われている。

そこで、ウルソデオキシコール酸(以下「ウルソ」という)を濃厚飼料中に添加すると喰い止まりが起こらず、また、肉質改善にも効果的であるという県外事例があったことからN肥育センターでの検証を行った。

2. 活動内容

平成21年5月導入の去勢子牛9頭を用いて、試験区と対照区に分けて比較検証を行った。ウルソの投与期間は、導入した翌月から出荷1ヶ月前までで、毎日1頭あたり5gずつ投与した。なお、毎月体重測定を行った。

3. 検証結果と考察

枝肉重量において、試験区の方が約49kg大きい結果となった。また、肉色において、試験区の方が有意に高評価を受けた。また、脂肪交雑(BMS)は有意な差がなかったものの試験区の方が高い傾向となった。なお、枝肉単価は試験区の方がkg当たり176円高かった。以上のことから、ウルソ投与が枝肉成績において、牛群平均の枝肉重量および付帯効果として肉質に好影響を与えることが示唆できた。

4. 今後の取り組み

今回の検証では、導入時に対照区と試験区の間で発育の差があり、発育の良い方にウルソを投与したため、実質的なウルソの効果が検証できたとはいえない。そこで、導入時に発育を揃えて、双方に日齢体重や体重の差がない状態で再度検証を行っている。状況としては、ウルソ投与区が発育を上回る経過で推移している。